

<塗料の種類や特徴>

・主成分

塗料は主に次の4つの成分でできています。

- ① 塗膜形成成分…一般的に樹脂とよばれ、耐久性の目安に用いられています。樹脂は大きく分けると、アクリル、ウレタン、シリコン、フッ素、無機があり、それぞれの耐久年数は、アクリル5年、ウレタン8年、シリコン10年、フッ素15年、無機15年が目安とされています。
- ② 添加剤…塗料に粘度を持たせたり、乾燥を促進させたり、カビを防いだり、様々な用途で用いられます。
- ③ 溶剤…塗料を薄める時に使用します。水で薄めたものが水性系、溶剤で薄めたものが溶剤系です。
- ④ 顔料、染料…色のもとになる材料です。

塗装業者は主に①を主に説明することが多いようですが、4つの成分を総合的に判断して選んだほうがよいでしょう。例えば、住宅の密集地では、③の溶剤を水にすれば臭いがしにくくなり、近所の迷惑になりにくいでしょう。

・機能性

塗料には防水性のほかに、いろいろな機能を付加したものがあります。

- ① 遮熱塗料…赤外線を反射し、外壁の表面温度が上がらないようにします。性能に等級があり、高性能なものであれば自治体などから補助金を得られるものもあります。
- ② 断熱塗料…住宅の保温機能が向上します。
- ③ セルフクリーニング機能…表面を流れる雨水などで汚れが落ちます。
- ④ 防カビ・防藻塗装…カビや藻の発生を抑制します。湿気の多い立地の場合などに有効です。

・光沢

光沢があると、塗装しなおした感じが強くなり、補修跡も目立ちます。一方、光沢を抑えた艶消し塗装であれば、落ち着いた重厚感のある仕上がりになり、補修跡も目立ちにくくなります。また、地域によっては、景観条例や建築協定などで外壁の色や艶が制限されている場合があるので、確認が必要です。